

視力の矯正は夏休みを利用して。かゆみや充血、炎症などの症状がある時は、早めに眼科に受診を

## ～夏に気をつけたい、お子さんの目のトラブル～ 視力の低下から、結膜炎、めいぼまで

夏真っ盛りです。季節から、目に関わることをご紹介します。

### ○視力手帳を渡された

1学期に入って間もなく視力手帳を手渡された子どもさんがいらっしゃると思います。3歳児検診・幼稚園検診・就学前検診での結果通知も同じです。多くの場合、近視・遠視・乱視などがその原因と考えられます。「まだ子どもに眼鏡をかけさせたくない」という声も、ときどき耳にしますが、眼鏡をかけて視力を矯正しておかないと、視力の発達・目の位置(眼位)・立体感覚(両眼視機能)に支障をきたす状態もあります。放置しないで夏休みを利用して眼科を受診してください。

### ○メヤニが出る、結膜炎かな？

この季節に多いのは、はやり目です。とても伝染力の強いウイルス性の結膜炎で「流行性角結膜炎」といいます。これは、プールでの授業が始まると流行する学校感染症の1つで、治るまで1～2週間かかり、その期間は登校が禁止されます。典型的な症状は、「朝起きたら目が開かないくらい多くのメヤニが出て充血していた、数日後、片眼から両眼とも同じ状態になった」というもので、目薬で症状を抑えていきます。さらに、家族内での伝染を予防するため、目を触らない、タオルなど直接触れるものは分けて使用するという対策が必要です。

また、「アレルギー性結膜炎」もよくみられます。最も有名なものは、春先のスギ花粉によるものですが、夏場でも、イネ科の植物などに反応して、発症します。かゆみや充血がある場合には、目薬で症状を抑えるようにしましょう。

さらにプールで、水が直接目に触れることでアレルギーが引き起こされるこ



かわさき眼科  
川崎史朗 医師

平成8年岡山大学卒業  
(財)日本眼科学会専門医  
日本緑内障学会会員

カラダの健康

健

ともあります。そのような場合は、ゴーグルを使用することをおすすめします。

そのほかに、「めいぼ(ものもらい)」も似たような症状を引き起こすことがあります。典型的な症状は、眼瞼(がんけん・まぶた)が腫れて痛くなります。眼瞼の縁にある脂腺の炎症や感染が原因で、部位により「麦粒腫(ばくりゅうしゅ)」や「霰粒腫(さんりゅうしゅ)」と呼ばれます。これは他人にうつったりはしません。多くの場合は、抗菌薬や炎症止めの目薬で治りますが、時には切開して膿を排出することもあります。コンタクトレンズをしている場合は、一時的に中止するほうがいいです。

○遊んでいて洗剤や薬品が目に入った  
誤って、洗剤や薬品が目に入った場合の対応についてご紹介します。痛くても、慌てずに、すぐに流水でよく目を洗って下さい。十分間ほどを目安に、水道水で充分です。この処置が早ければ早いほどいいです。その後は、すみやかに眼科を受診してください。目の状態によって、さらに洗眼が必要な場合や、炎症止め・感染予防の目薬が必要な場合があります。

お役に立ちましたでしょうか？